

「長野県の金融経済動向」(10月)の前回との比較

2015年10月

2015年9月

(総論)

長野県経済は、生産に新興国経済の減速の影響などがみられるものの、緩やかに回復しつつある。	長野県経済は、生産の一部になお弱さを残しつつも、緩やかに回復しつつある。
--	--------------------------------------

(各論)

公共投資	高水準ながら緩やかな減少傾向となっている。	高水準ながら緩やかな減少傾向となっている。
住宅投資	底堅く推移している。	底堅く推移している。
設備投資	緩やかに増加している。	緩やかに増加している。
個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。
生産	新興国経済の減速の影響などから、このところ横ばい圏内の動きとなっている。	緩やかに回復しているものの、一部に弱さがみられる。
雇用・所得	着実な改善が続いている。	着実な改善が続いている。

1. 実体経済

(生産)

半導体関連・電子部品等	スマートフォン向けの増勢一服のほか、生産用機械向けで中国など新興国経済減速の影響がみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。	スマートフォン向けの増勢に一服感がみられることなどから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。
自動車関連	北米向け等の海外需要が堅調なものの、国内向けで一部に弱さがみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。	北米向け等の海外需要が堅調なものの、国内向けで一部に弱さがみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。
機械・同関連部品等	工作機械は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復しているものの、中国など新興国経済減速の影響がみられる。成形機は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復している。計器は、自動車向け等の需要が堅調なことから、生産は高めの水準で推移している。バルブは、プラント向け需要が堅調なことから、生産は高めの水準で推移している。	工作機械は、中小企業の設備投資姿勢の慎重さが後退しているほか、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復している。成形機は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復している。計器は、自動車向け等の需要が堅調なことから、生産は高めの水準で推移している。バルブは、プラント向け需要が堅調なことから、生産は高めの水準で推移している。
飲料	弱含んでいる。	弱含んでいる。

(個人消費)

大型小売店 売上高	8月は一部に弱さがみられるものの、消費者マインドの持ち直しを背景に緩やかに回復しつつある。	7月は一部に弱さがみられるものの、消費者マインドの持ち直しを背景に緩やかに回復しつつある。
家電販売	8月は一部に持ち直しの動きがみられることから、全体としては前年を上回った。	7月は一部に持ち直しの動きがみられることから、全体としては前年を上回った。
自動車販売	8月は前年を上回った。	8月は前年を上回った。

(公共・住宅投資)

公共工事請負額	8月は国、県の発注分が減少したものの、市町村、独立行政法人等の発注分が増加したことから、全体では前年を上回った。	7月は市町村の発注分が増加したものの、国、県、独立行政法人等の発注分が減少したことから、全体では前年を下回った。
住宅着工戸数	8月は持家が増加したものの、貸家、分譲が減少したことから、全体では前年を下回った。	7月は持家、貸家、分譲が増加したことから、前年を上回った。

(雇用・所得)

雇用・所得	有効求人倍率をみると、7月は新規求人数が増加していることから、回復している。所得面では、7月は常用雇用者数が前年を下回ったものの、一人当たり名目賃金が前年を上回ったことから、雇用者所得は前年を上回った。	有効求人倍率をみると、7月は新規求人数が増加していることから、回復している。所得面では、6月は常用雇用者数が前年を下回ったものの、一人当たり名目賃金が前年を上回ったことから、雇用者所得は前年を上回った。
-------	---	---

(物 価)

消費者物価 (除く生鮮食品)	8月は交通・通信や光熱・水道が下落したことを主因に、前年を下回った。	7月は交通・通信や光熱・水道が下落したことを主因に、前年を下回った。
-------------------	------------------------------------	------------------------------------

2. 金 融

貸 出 金	8月は前年を上回っている。企業向けは、運転資金需要が弱含んでいるものの、設備資金需要に持ち直しの動きが広がっている。個人向けは、前年を上回って推移している。こうした中、貸出約定平均金利は、緩やかに低下している。	7月は前年を上回っている。企業向けは、運転資金需要が弱含んでいるものの、設備資金需要に持ち直しの動きが広がっている。個人向けは、前年を上回って推移している。こうした中、貸出約定平均金利は、緩やかに低下している。
預 金	8月は法人預金が概ね前年並みで推移する中、個人預金が前年を上回って推移しており、全体では前年を上回っている。	7月は個人・法人預金ともに、前年を上回って推移している。